

保護者向けの性暴力に関する心理教育プログラムがレイプ神話の確信度と子どもへの対応効力感に及ぼす効果

○今北哲平 (鳥取生協病院)・河村優子 (鳥取県警察)

キーワード: 性暴力 レイプ神話 性教育 同意ワーク バイスタンダー・アプローチ

問題と目的

子どもの性暴力予防や二次被害予防のためには、保護者をはじめとするバイスタンダーの存在が非常に重要となる (Banyard et al., 2004)。保護者が性暴力の正しい知識を有していることで、子どもの被害や加害の抑止につながるだけでなく、被害後の自己開示が妨げられにくくなるため (Paul et al., 2009)、早期発見や早期対応に結びつけることができる。今回、保護者向けの性暴力に関する心理教育プログラムの実践を経験したため、その内容と結果を報告する。

方法

対象者 A 県 B 町主催の Parent-Teacher Association (PTA) 向けの研修会の参加者のうち、研修前後のアンケート調査に同意の得られた 20 名の保護者(平均年齢 43.56 歳、標準偏差 6.34, 男性 9 名, 女性 11 名)を分析対象とした。

プログラム構成 Schewe (2002)などを参考に作成された 90 分、1 回完結のプログラムが実施された。プログラムの内容は Table 1 の通りであった。

Table 1 プログラムの内容

テーマ	具体的内容	形式
1 性暴力の基礎知識	定義, レイプ神話, 二次被害, 性犯罪	講義, クイズ
2 同意を考える	性的行為における真の同意	グループワーク
3 子どもの性暴力の基礎知識と対応	子どもが受けやすい性暴力, 被害の影響, 大人の反応, 被害や加害が疑われる子どもへの対応	講義
4 子どもとのコミュニケーション	自己開示を妨げないための質問・応答技法	講義
5 相談先を知る	相談窓口の紹介	講義

主要評価項目 (1)レイプ神話の確信度 (0-100%) : 「強姦やわいせつなどの性暴力 (以下, 性暴力) に遭うのは若い女性だけだと思う」、「性暴力に遭うのは暗い夜道や人気のない場所が多い」、「性暴力の被害者はほとんどが見知らぬ人だと思う」、「子どもが性暴力に遭ったとしても、されたことの意味が分からなかったりして強いトラウマが残ることは少な

いと思う」、「子どもの性暴力被害に関する証言が矛盾していたり、発言を取り消したりする場合、その告白は安易に真に受けない方がよい」、「男性が性暴力被害に遭ったとしても、女性被害者よりはトラウマが残りにくいと思う」、「男性に性暴力をはたらく男性には同性愛者が多いと思う」の 7 項目。
(2)子どもへの対応効力感 (0-100%) : 「子どもが性暴力の被害や加害にかかわってしまったとき、対応することができると思う」の 1 項目。

副次評価項目 内容の理解度を 0-100%で尋ねた。

倫理的配慮 評価項目への回答は匿名とし、実施にあたっては研修参加者のインフォームドコンセントを確認した。また、研修中は気分転換等のためにいつでも入退室可能とした。本発表に際しては研修の主催者から書面にて同意を得た。

結果

プログラム実施前後における各評価項目の平均得点の差を対応のある t 検定および効果量の算出によって検討した。その結果、まずレイプ神話の確信度はプログラム前から後にかけて有意で大きな減少が認められた ($t(16) = 4.69, p < .001, d = 1.66$)。次に、子どもが性暴力の被害や加害にかかわった際の対応効力感にはプログラム前から後にかけて有意で中程度の増加が認められた ($t(16) = -3.61, p < .01, d = 0.65$)。理解度の平均は 70%であり、得点範囲は 50%~90%であった。

考察

講義, クイズ, グループワークを用いた本プログラムは、保護者のレイプ神話の低減と、子どもが性暴力の被害や加害にかかわった際の対応効力感の向上に有効である可能性が示唆された。今後は、すべての参加者がよく理解できるプログラムにするための内容の洗練化が必要である。

※開示すべき利益相反なし

(Teppey IMAKITA and Yuko KAWAMURA)